

「小学生の部」

(金賞)

〔自転車は魔法の翼〕

小林 里緒菜
東京都江東区立東川小学校五年

ぐいんと地面が前へ動き、私の体がふわり、と空中に浮きました。補助輪を外した自転車に乗れるようになったとき、初めて自転車と私が本当の友達になれたときの感想です。私は自転車に乗るのが大好きです。好きな時に、好きなように、どこでもいけるからです。一番楽しいのは友達と誘い合わせて遊びに行くことです。図書館に行つて、自転車で移動して公園に行つて、また移動してと、自由自在に思うつくままに行動できるからです。休みの日には地図を持ってみんな遠出のサイクリングをするのもあります。世界中を自転車で旅をする人達もいるそうですが、私にはその人たちの気持ちがよくわかりません。車で走れない道も、道のない場所さえ、自転車で走れるし、人や花や建物も力でも走るときなどに、風が私の顔にゆんゆんとなでて、道や木や景色が見えて次々と目の前に繰り広げられては後ろに飛んで行き、また新しい景色見えてきて、自分は世界中とつながっているんだと、とてもわくわくした楽しい気分になります。私は自分の水色の自転車に「ブルース」という名前をつけています。ブルースは私をどこへでも連れて行ってくれる魔法の翼を持った、私の大切な友達です。私も色々な場所に出かけるのが好きです。また、休みの日にはさびを落としたり、タイヤの泥を落としてあげたりすると、とても嬉しいそうです。でも自転車には乗る人が注意しないと危険な面が二つあります。ひとつは車や自転車同士などでぶつかって、事故にあうこと、もうひとつは人に危害を与えてしまうことです。私は以前、自転車で乗っていたとき、おばあさんが歩いていたので、ベルを鳴らしたのですが、おばあさんはおぼかなかったので速度をゆるめたのですが、追いついてしまえば結局は降りて歩いて追いついたことになり、ベルを鳴らしても、小さい子供にはべりお年寄りや耳の不自由な人には聞こえないことも、小さい子供にはべりお年寄りが分からぬ場合もある、わかっている、気づきました。それから、私は、前に人がいる時はベルを鳴らしてもゆっくり走るか、降りて歩くことにしています。心のやさしいブルースが、私の大切な友達が、誰かを傷つけないで泣かせたりするのには絶対いけません。自転車の自由なバイクに比べて遅いけれど、反面、燃料がいらない、屋スペースが自由だったり狭くて済む、車やバイクの走れない道も走れるなど、沢山の利点があつて、沢山の人の生活を色々な形で助けてくれる便利な楽しい乗り物です。沢山の人の生活を色々な形で助けてくれる便私には一生自転車と友達でいたいのです。